総合研究奨励賞
（結 城 賞）

松本　尚美

略　　歴

平成15年３月	岡山大学医学部医学科卒業
平成15年４月	住友別子病院　研修医
平成17年５月	国立病院機構岩国医療センター　小児科医
平成18年９月	福山市民病院　小児科医
平成20年４月	総合病院岡山赤十字病院　小児科医
平成23年９月	出産育児及び配偶者の海外留学帯同のため退職
平成28年４月	岡山大学大学院医歯薬総合研究科入学
令和２年３月	岡山大学大学院医歯薬総合研究科修了（博士（医学））
令和２年４月	岡山大学大学院医歯薬総合研究科　疫学・衛生学分野　非常勤研究員
令和２年10月	岡山大学大学院医歯薬総合研究科　疫学・衛生学分野　特任助教（岡山大学ウーマンテニュアトラックジュニア研究員）
令和３年５月	岡山大学大学学術研究院医歯薬学域　疫学・衛生学分野　助教

研 究 論 文 内 容 要 旨

コロナ禍では新型コロナウイルス感染症自体だけでなく、パンデミックに伴う人々の生活行動様式の変化が、小児の身体や心の健康に大きな影響を与えたと考えられる。特にコロナ禍では新型コロナウイルス感染症以外の呼吸器ウイルス感染症の多くが激減したことが世界的に報告されており、小児期の喘息発症に対する呼吸器ウイルス感染症の影響を測定する手がかりを提供する可能性がある。

本研究では、日本全国225医療機関、約2,440万人分の電子カルテ情報を含む、日本最大規模の医療情報データベース「RWDデータベース」のデータを解析した。研究対象期間である2017年１月から2021年５月までの間に新たに診断を受けた15歳以下の子どもは、喘息で29,845人、アトピー性皮膚炎で20,306人であった。分断時系列解析を用いて2020年３月の全国一斉休校前後の喘息とアトピー性皮膚炎の新規診断数の変化を検証した。全国一斉休校後、小児喘息新規診断数は59%減少し、その後も15カ月間に渡って低い水準にとどまった。この傾向は、ライノウイルスやRSウイルスのサーベイランス報告における減少に近似しており、呼吸器ウイルス感染症罹患リスクの高い２歳以下の子どもで72%と最も大きな減少を示した。一方で、新たに診断されたアトピー性皮膚炎は20%の減少にとどまった。

本研究結果から呼吸器ウイルス感染症罹患と小児喘息発症との関連が示唆された。ライノウイルスやRSウイルスなどの呼吸器ウイルス感染を予防することが、小児期の喘息発症予防に寄与する可能性がある。